

〔普及の現場から〕

新見市における飼料用稲生産・利用の取り組み

新見農業普及指導センター

1 はじめに

新見市では平成18年度より飼料用稲専用品種「クサノホシ」が導入され、地域での栽培実証が行われ、平成19年度からは本格的な栽培が開始されました。

今年度の作付面積は約10haとなり、また栽培地域も市内全域に広がってきました。

表 新見市における飼料用稲栽培面積の推移

年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
飼料用稲 作付面積	2.1ha	4.9ha	9.8ha

新見市における平成20年度産地づくり対策の概要（10a当たり）

稲発酵粗飼料（ホールクロップサイレージ） 30,000円

担い手加算（認定農業者、集落営農組合員） 20,000円

〈要件〉

- ・専用種を作付けし、集落又は隣接する農地で、作業を一体的に行っている所。
- ・取り組み面積は50a以上。
- ・畜産農家との契約が必要。

2 地域での取り組み

飼料用稲の生産・利用は新見市農林業振興技術者連絡協議会畜産部会と農産部会が中心となって推進にあたってきました。

新見地域飼料用稲生産利用推進会議の開催状況

第1回 平成20年4月23日（水）

J A阿新会議室

- ・平成20年度飼料用稲の作付計画について（市役所）
- ・飼料用稲栽培暦の検討について（普及指導センター）
- ・イネホールクロップサイレージの利用推進について（農協）

第2回 平成20年6月19日（木）

J A阿新会議室

- ・平成20年度飼料用稲の作付実績について（市役所）
- ・各種事業への取り組みについて（備中県民局畜産第二班、農協）
- ・飼料用稲専用収穫機の稼働計画について（市役所）
- ・新技術「鉄コーティング種子湛水直播栽培」について（普及指導センター）

今年度の新たな取り組み

- ・新品種の栽培実証：晩生種「はまさり」の地域適応性検討（哲西町）
- ・低コスト栽培技術実証：鉄コーティング種子湛水直播栽培実証（神郷、哲西町）

収穫調製体系の検討

新見市では平成18年度にフレール方式の専用収穫機が1台導入され、今年度も新たに1台の導入を予定しています。

飼料用稲の栽培は市の北部（神郷、大佐）で約4ha、南部（哲多町、哲西町）で約6haが作付けされており、この2台で南部から北部へ収穫を進めていくことにしています。

地域では飼料用稲WC Sの収穫調製を9月中旬頃から開始し、10月中旬までに終了するよう計画しています。

また、8月下旬から9月上旬にかけてはこの専用収穫機を活用して稲わらのサイレージ調製も検討しています。



飼料用稲生産利用推進会議



鉄コーティング種子の湛水直播（神郷）



新技術現地検討会（哲西町）



稲わらサイレージ調製の様子（H19）

3 おわりに

肉用牛経営は飼料や資材の価格が上昇するなか、市場の子牛価格は下落し、経営方針の大きな転換点を迎えています。今こそ自給飼料生産を見直し、地域内資源を有効に活用していくことが経営の安定につながります。

新見市が進めている肉用牛増頭計画を達成するためにも、地域内外で粗飼料を確保し、畜産農家へ安定供給していく体制の確立をめざしていきます。